

体験交流館ニュース

■母から子への手紙コンテスト

日ごろ、なかなか言葉に出せない思いを手紙に託し、親子の絆を見つめ直してみませんか。ご応募お待ちしております。

○募集期間：7月1日(木)～9月30日(木)
当日消印有効

○対象：「お母さん」ならどなたでも参加できます。

○応募方法：400字以内の作品を書いて、氏名、住所、年齢、職業と電話番号を明記し、80円切手をはりつけの上、郵送してください。郵送に便利な専用応募用紙もあります。1人何作品でも応募できますが、封書1通につき1作品に限ります。また、入賞はその中の最上位1編だけとします。

○表彰：大賞(賞金10万円/1編)、準大賞(賞金5万円/1編)、優秀賞(7編)、佳作(数編)、特別賞/郵便事業株式会社賞(1編)その他入賞者全員にふるさと産品などを進呈。※応募作品は返却できません。あらかじめご了承ください。

○発表：11月中旬に入賞者に連絡します。
※報道機関から直接連絡が行く場合もあります。入賞作品は、テレビや新聞、書籍、ホームページなどで、内容、氏名、住所(都道府県名まで)が紹介・掲載されます。詳しい内容は専用応募用紙にも記載して

あります。専用応募用紙の請求、応募、問い合わせは下記にご連絡ください。

○応募・問い合わせ先
〒969-3123 猪苗代町字鶴田141-1
町体験交流館内
「猪苗代町絆づくり
実行委員会」
☎(72)0180



野口英世博士と母シカ

■影絵の世界をお楽しみください

福島大学児童文化研究会との共催で、影絵鑑賞会を開催します。終了後、出演者との交流会も予定しています。ぜひご来場ください。

○日時：8月12日(木)
午前10時から11時40分(開場9時30分)
○会場：町体験交流館 学びいなホール
○対象：小学校低学年以下の児童、幼児
○問い合わせ先：町体験交流館 生涯学習課
☎(72)0180

猪苗代町体験交流協会からのお知らせ

■ふるきやら・ミュージカル

「瓶ヶ森の童童」～公演テーマは自然との共生～

劇団ふるきやら3年ぶりの猪苗代公演決定。プロの舞台を猪苗代で鑑賞できる機会です。

○日時：8月29日(日)午後2時開演
(午後1時30分開場) 1回公演
○会場：町体験交流館 学びいなホール
○入場料：大人3,000円、高校生までの児童2,000円
※5歳以下の子どもは入場できません
当日は500円増 全席自由席
○チケット取り扱い：町体験交流館
○主催：猪苗代町文化を思う会

■第1回いなわしろ唄と踊りの祭典

歌と踊りが好きな仲間が集まって、初めての発表会を開催します。また、一緒に発表をしたい人も募集中です。皆さんの参加をお待ちしています。

○日時：8月8日(日)午前9時30分開演
(午前9時開場)
○会場：町体験交流館 学びいなホール
○問い合わせ先：☎(62)2294 (古川英信)

■第9回いなわしろ民話まつり

楽しい話、昔の暮らしの話、妖怪の話、磐梯山にちなんだ話や町に伝わる話などを面白おかしく語ります。みんなしてきてくなんしょ。

○日時：7月19日(月) 13:30～16:00
○会場：町むかし体験館(旧山内家住宅)
○問い合わせ先：いなわしろ民話の会
☎080(3146)7130(鈴木)

■第16回町民登山教室「猫魔ヶ岳・雄国沼」

○日時：8月7日(土) 8:00 町体験交流館集合
○場所：猫魔ヶ岳(1,404m)・猫石・雄国沼
○行程：町体験交流館(8:00)→八方台(9:00)→猫魔ヶ岳(10:15)→猫石(11:45～12:45)→雄国沼(14:00)→雄子沢駐車場(15:30)→町体験交流館駐車場(16:00)
○会費：500円(保険料、通行料金、ガソリン代)
○参加資格：5時間程度の山道を歩ける健康な人
登山に適した服装、昼食、水、雨具を持参
○申し込み・問い合わせ先：猪苗代山岳会
☎090(2798)8346(江花)

町内イベントのご案内

■吾妻修験を学び・歩こう

吾妻山信仰の中心は吾妻山大権現で、吾妻連峰の深山幽谷にあります。猪苗代地方を潤す水は、吾妻連峰の山々から流れ出します。そのため、水源の神を崇拝する農民と深山幽谷に修練の場を求めた修験の入峰修業とが重なり、水下の猪苗代で信仰されました。

また、養蚕の神としても霊験があり、中通りの伊達・信夫・安達・田村の各村々にまで講が結ばれ、毎年あるいは隔年に代参を建て入峰参拝する習わしがありました。しかし、明治維新時の神仏分離で衰退、終戦後は信仰が薄れ、講もなくなり、入峰参拝者が途絶えました。この度、遠い祖先の想いを探ろうと、講座と入峰を計画しました。皆さんの参加をお待ちしています。

講座

○日時：
第1回 7月23日(金) 午後7時～午後9時
修験について
第2回 8月6日(金) 午後7時～午後9時
修験について

町外イベントのご案内

■保科正之公生誕400年 土津神社周辺史跡案内のための講座

I 歴史ガイドの要点・正之公の生い立ちと業績
①8月8日(日) ②8月9日(月) 午後7時
II 保科正之公と家臣団/そのゆかりの史跡/正之公とその後の会津藩
①8月29日(日) ②8月30日(月) 午後7時
III 土津神社・奥の院・田中正玄の墓・服部安休の墓・磐梯神社など

①9月12日(日) ②9月13日(月)
午前9時～午前11時30分

○受講料：無料
○講師：猪苗代の偉人
を考える会会員
○申込締め切り日：
7月30日(金)
○問い合わせ先：猪苗代の偉人を考える会
☎080(3146)7130(鈴木)
町体験交流館 ☎(72)0180



温帯モンスーン(温帯季節風気候)がもたらす梅雨は誠にうっとうしいが、恵みの雨でもある。
「ときは今天(あま)が下(くだ)しる五月哉」天正十年(一五八二)五月二十四日、明智光秀が京都の愛宕山(あたご)で催した連歌会(れんがかい)の発句である。ときは時であるが、明智のルーツ美濃土岐源氏の土岐でもある。天(あめ)雨(あめ)が下(くだ)しるは天下を治めるで、土岐が天下を取る、すなわち光秀の信長暗殺の意思が込められている。こうなると、一見変哲もない梅雨時の風景を詠んだ句がとんでもない意味を帯びてくる。本能寺の変が六月二日、その直前に行われた連歌会であったため、今なお種々憶測を呼ぶわけである(※日付は旧暦なので太陽暦では一月遅れとなる)。
連歌といえ、郷土の偉人猪苗代(けんざい)愛宕山連歌会のメンバーの中に猪苗代兼如(けんじゆ)という人物の名がある。もちろん兼載の流(りゅう)れをくむ人物かと思われる。
梅雨(つゆ)にちなむ話をもう一つ。時代はさかのぼり源三位頼政(よりのまさ)の平家追討の旗揚げ、「稲村ヶ崎名將(なまざら)の剣(けん)投(な)げし、古戦場」と唱歌にも謳(うた)われた新田義貞(よしさだ)の鎌倉攻撃や足利尊氏(たかうじ)の六波羅襲撃(ろはら)など、偶然とはいえず、すべて梅雨(つゆ)のころに起こっている。源氏の荒ぶる魂(たま)が目(め)を覚(さ)ますのが梅雨(つゆ)時(とき)なのである。この季節、平家系統(へいけい)の人は十分注意(ちゅうい)されたい。他愛(あ)もない憶測(おくそく)に過ぎないのかも知れないが、こういうのも歴史(れきし)の楽しみ(たのしみ)方(かた)の一つである。(土屋)

教育委員会コラム 第三回